

都内東部地域の放射線量測定結果について

2011年7月25日

日本共産党東京都議会議員団

足立区、葛飾区、江戸川区の159地点・364カ所を調査

日本共産党都議団が5月におこなった都内測定の結果、比較的高い放射線量が測定された足立区、葛飾区、江戸川区について、159地点、延べ364カ所の空中放射線量を測定しました。

5月の調査は、東部地域を5kmメッシュ、延べ55カ所で測定しましたが、今回は、足立区、葛飾区をほぼ1kmメッシュ、江戸川区をほぼ2kmメッシュで区切り、足立区は61地点・142カ所、葛飾区は68地点・122カ所、江戸川区は30地点・100カ所、計159地点・364カ所を測定しました。

今回の主な測定目的は、子どもたちの生活の場での放射線量の状況、そしてどのような場所に放射性物質が蓄積しているかを調査することでした。

測定は地上1メートル及び地上5センチメートルの地表面でおこない、測定日は7月4日～16日。測定にあたって専門家及び地元日本共産党区議団の協力を得ました。

測定結果の特徴は以下の通りです。

1. 室外での地上1m高で、毎時0.15マイクロシーベルトと、自然放射線量（毎時0.036マイクロシーベルト）を除いても年間1ミリシーベルト以上になる箇所が、118カ所あった

①364カ所の内、室外の地上1m高での測定は186カ所です。線量ごとの内訳は

- 0.1 μ Sv/h 未満 9カ所 (5%)
- 0.1 μ Sv/h 台 113カ所 (61%)
- 0.2 μ Sv/h 台 58カ所 (31%)
- 0.3 μ Sv/h 台 6カ所 (3%)

②同一地点でも、場所によって放射線量が異なること多くの所で、中央部の数値の方が低いことが特徴です。

10m四方程度の小さな駐車場内でも、ある駐車場では中央部とトタン塀の脇とでは0.17 μ Sv/h と0.24 μ Sv/h、別の駐車場でも中央部と隣地の軒下とで0.20 μ Sv/h と0.23 μ Sv/h の違いがありました。

③0.15 μ Sv/h 以上は 118 カ所（全体の 63%）でした。

④0.15 μ Sv/h 以上の箇所地表部の形態は

草地上部	35 カ所
土上部	26 カ所
アスファルト・ブロック上部	19 カ所
砂地上部	17 カ所
その他	21 カ所・・・草地とアスファルト境界部など

⑤年間 2 ミリシーベルトに相当する 0.26 マイクロシーベルトを超えた箇所は、22 カ所に及び、最も高い放射線量は水元公園中央広場入口付近の毎時 0.41 マイクロシーベルト（年間 3.59 ミリシーベルト）でした。

2. 地上 5 センチメートルの地表面では、ほとんどの箇所で毎時 0.15 マイクロシーベルトを上回り、年間 2 ミリシーベルトに相当する毎時 0.26 マイクロシーベルト以上の地点は 90 カ所

前回のわが党の調査では、都立水元公園内の一部草地の地上表面が、毎時 0.62 マイクロシーベルトと最も高い放射線量でした。

①今回の調査では、364 カ所の内、地上 5 センチメートルの地表面での測定は 178 カ所です。内、毎時 0.26 マイクロシーベルト以上の箇所は、90 カ所（51%）ありました。最も高かった所は、住宅団地内街路に溜まった砂面で毎時 1.87 マイクロシーベルトでした。

②その内訳は

土面	5 カ所
アスファルト上	6 カ所
窪地・雨樋のない軒下・雨樋はけ口	10 カ所
公園内の砂地・砂場	11 カ所
排水溝・側溝のグレーチング上部	11 カ所
公園の滑り台下・ベンチ下	12 カ所
草地面	13 カ所
L 型側溝フタなどの道路脇に溜まった砂	15 カ所（雨水がたまり易い所）
その他	7 カ所（アスファルトと草地の境界等）

③全体として、同一地点でも場所によって数値が大きく異なることが特徴であり、と

りわけ、公園などの中央部では放射線量が低くなる傾向がうかがえます。

公園内に限っても、広場の中央部か隅か、葉の茂った大樹の下に入るか入らないか、雨樋のない建物の周辺かどうか、公園内に斜面があるかどうか、側溝の近くかどうか、側溝内が清掃されているかどうか、植込み内か芝生地かなど、綿密に測定すればするほど同一地域内であっても場所によって放射線量に違いがあることがわかりました。

- ④毎時 0.26 マイクロシーベルト以上の箇所が最も多かった、L型側溝フタなどの道路脇に溜まった砂では、溜まった砂が多いほど高線量でした。最も高い測定値は、毎時 1.87 マイクロシーベルトでした。
- ⑤次いで毎時 0.26 マイクロシーベルト以上の箇所が多かったのは草地面ですが、最も高い箇所は毎時 0.36 マイクロシーベルトでした。
- ⑥排水溝・側溝上部では、清掃がされていない、内部に溜まった砂の量が多いほど高線量でした。
- ⑦さらに公園内で木片チップが敷かれたところは、砂地・土よりも相対的に高い数値でした。雨水が溜まりやすい滑り台の下やベンチの下なども比較的高くなっています。
- ⑥葛飾区内の江戸川土手下の道路などは、比較的放射線量の高いホットスポットとなっていることがうかがえます。

測定方法など

- 使用した測定器 ALOKA PDR-101 型 ポケットサーベイメーター (5月の測定と同一のもの)
- 測定方法は、10秒間隔で10回読み取り、その平均値を算出しました。(5月の測定と同一の方法)
- 自然放射線量は、文部科学省が貸し出した「はかるくん」によって、1980～1998年度に測定した都内の平均値 0.036 を使いました。

以上